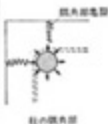
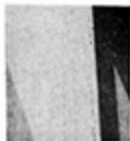




B2-9 コンクリートのキレツについて

書きだせば切りがないが私の体験を要約すれば全くキレツのないコンクリートを打つ自信はないの一言につきる。先年これに懸するアンケートをとったことがあるが施工者の大部分が私の考えを賛賞する反応を示した。しかし一般論としては既に相当研究も進み立派な報告も散見される所である。結局キレツ防止にも処置箇所といったものがあり、それを熟知して対処すれば絶対とはいえないが、ある程度の防止は技術的にも経済的にも可能である。以下実例をあげて参考にする。



## ① 狂筋キレツ

柱の隅角部にキレツが入ることがある。主な原因の一つは主筋の張強度がコンクリートの張強度より大きくなり、コンクリートを鉄筋の半径方向に圧するからである。鉄筋が太いほど半径方向の圧力が大となり、被覆厚が薄いほど、フープが弱いほど張力が落ちてキレツが生じやすい。



## ② 曲げきれツ

曲げには、柱とどんどんといってよいほどセメントが付きもので、このためコンクリートのきれツ模様にもセメントの影響が入ってくる。しかし、セメントきれツは曲げきれツよりあとから発生し、セメント重量が柱とどんどん無状でなくなる小さい場合には、梁が破壊する程度まで扱われない。曲げきれツは、必ず主筋方向と隅角に入る。